

色丹島の 忘れえぬ思い出



鹿又 淳子さん
(色丹島出身)

私の島での記憶は、軍服姿で馬に乗っていた父の姿が真っ先に思い浮かびます。既に閉鎖されていた鯨場へ父に手を引かれ湾を回った事を覚えています。その後、父は病気療養のため根室の本家宅で過ごすこととなり、根室空襲のあった前月の昭和20年6月に父は37歳で亡くなりました。

島では、空襲に遭った本家も合流し、同居中の伯母母子、身寄りのない他人様と、17、8人の大家族で暮らしました。当時、番屋には兵隊さんが入っていて、住宅と繋がっていましたので、隊長さんから慰問袋を貰ったりしました。父が亡くなったあと、祖母の計らいで母の実家があるイネモシリの親戚宅までの道程を母子4人で歩きました。小川でのザッコ釣りや砂浜の浅瀬でカレイを追いかけたり・・・。

昭和21年4月、私は一年生になりましたが、入学用品はどれも母の手作りでした。兵隊さんの残していた毛布、テント地でカバン、スリッパ、ぼうし、オーバーもランプの下で作ってくれました。大人や十代の従兄弟たちが大勢でしたので、寂しいとか不安も有りませんでした。一年生の運動会で貰った紅白まんじゅう、学校で、お昼にジャガ芋とキャベツの浅漬けを食べたことを今も覚えています。

ソ連兵が島に上陸し、家を明け渡す事になり、マタコタンに移りました。ソ連兵が上陸した当初は、銃を向けられたりして恐い思いもしましたが、後には、白パン、黒パンを貰ったり、協会のような建物でソ連の子供達と映画らしきものを見た記憶があります。

当時、マスコタンでは、銃を構えたソ連兵が二人、監視の為とかで一部屋を使っていました。祖母は食料としてソバを蒔いたりしていました。引き揚げる時のために、母はリュックサック作りです。テント地で、あのリングを利用して作るのです。可能な限り、大人の分、そして私の分まで、一針一針、返し針で縫ってくれました。

そして、いよいよ引き揚げとなり、マスコタンから漁船で出航し、沖に停泊していた大きな鉄船に乗ることになりました。母に背負われていた妹が、今でも口にするほど恐ろしかったのは、荷物と同じモッコで吊り上げられた記憶です。船倉は既に満杯で、食べる物は各自持参した僅かの食料だったと思います。樺太に着いた時は、雪もあり、道はぬかるんだり凍ったりしていた時季でした。女学校だった建物が収容所で、ここでの食事は、只の塩汁に大豆が入っている粗末なもので喉も通りません。体が弱って命を落とした方々も多かったです。その後、なんとか函館に上陸となるのですが、それも叶わずに船中で亡くなった人たちも少なからずいたでしょう。お陰さまで私たち一行は無事上陸できましたが、あの時のDDT噴霧は忘れません。

本家一行は本州へ、母は私たち三人を連れて母の姉の居た根室へ向かったのです。

母の晩年は、病院のベッドでの生活でしたが、先夫の事を口にしたくない、ほとんど伯母や所縁のあつた方々から聞き知った事が多いのですが、その母も平成16年に他界し、晩年にふと口にしたこと、それは病床に在った父から私たち三人の子どもを託されたのを忘れずに心に秘めて過ごして来たのだと改めて知り、もう胸が一杯で言葉も出ませんでした。

編集後記

今回の望郷は、支部及び連盟、支部青年部の総会が終わり、本年実施した啓発事業及び令和元年の啓発活動について皆さんにお知らせします。

また、元島民の鹿又淳子さんから、四島での「忘れえぬ思い出」と題した手記が寄せられましたので、故郷を懐かしんでいただければと思います。

「令和」が実り多き時代となることを心から願い、元島民の方々とともに早期返還に向け頑張っていきましょう。
(事務局長 松本)

会員の皆様へ

●会員募集中!

会員の方々のご家族や知人等で千島連盟に加入していない元島民や後継者(子・孫)の方々に是非入会をお勧め下さい。(詳細は事務局にご照会下さい。)

●会費納入のお願い

千島連盟は皆さんの会費で運営されています。
(本部会費は年額2,000円)
未納の方は早めに納入頂きますようお願い致します。



〈平成30年度 標語最優秀賞〉

返還へ 世代を超えてつなぐ声



中標津支部長
佐藤 健夫

ご挨拶

会員の皆様、毎日元気で過ごされておりますでしょうか。

年号が変わり、「令和」の時代が始まりました。支部総会に続き、本部総会も開催され、令和元年の活動が開始されます。

昨年11月の日ソ首脳会談において、「1956年の日ソ共同宣言の交渉を基礎として、色丹・歯舞の返還を図ることで合意され、事態は動くと多くの人が期待したのですが、その後の動きはなく、領土返還交渉の進展は見られません。失望の一語に尽きます。

北方領土での軍事化が心配されるなか、返還運動の長期化は避けられない状況になっています。元島民の高齢化が進むなか、まだ頑張っている元島民がいますが、返還運動を継続するためには2世・3世の後継者の人達の頑張りに期待するしかありません。連盟においても、本年度増額となった北海道からの補助金を活用して、多々の後継者対策事業が実施されます。

新時代での領土問題の解決を願い、四島返還の早期実現に向けて後継者の人達と共に頑張っていきましょう。

平成31年度 千島連盟中標津支部通常総会終る!



平成31年度千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部通常総会が4月19日(金)寿宴において開催されました。

総会には、脇千島連盟理事長をはじめ7名の方を来賓に迎え、会員38名の出席により、提出された議案は全て承認されました。また、任期満了に伴う役員改選では、佐藤支部長、副支部長3名、常任理事1名、理事14名、監事1名を再任し、新監事に島民2世の川上幸作さんを選任し、21名体制で支部運営を行って行くことが了承されました。

総会で承認されました本年度の主な啓発事業は、次の通りです。

●北方領土返還啓発事業

- ・北方領土「語り部&寄席」in なかしべつ 7月18日(木)
- ・北方領土返還要求「中標津住民大会」 年8月10日(土)
- ・青少年北方領土学習会【新規事業】 実施日未定

●北方領土返還要求街頭署名活動

- ・なかしべつ夏祭り会場 8月10日(土)~11日(日)
- ・なかしべつ冬祭り会場 2月1日(土)~2日(日)



令和元年度(公社)千島歯舞諸島居住者連盟通常総会の開催



5月27日(月)、第二水産ビル(札幌市)において、道内外から会員98名の出席により令和元年度通常総会が開催されました。

総会に先立ち、長年にわたり返還運動に尽力された中標津支部理事の田中晴樹さん、池田秀人さんを含む13名の方々に千島連盟の脇理事長より功労者表彰が行われました。

総会冒頭、脇理事長からビザなし訪問で問題発言した丸山衆院議員に連盟として抗議文を送付したことが報告され、来賓の宮腰北方大臣も「不見識極まりない。連盟はじめ多くの方々の思いと相いれず誠に遺憾。二度と起らぬよう円滑な事業実施に努める」と述べた。

総会では、議長に岩崎忠明氏(道央支部)を選出し、上程された3議案と本年度改選期となる理事及び監事の選任について承認された。

その後の臨時理事会で野口繁正氏(道央支部)を新副理事長に選任、退任した武田定一氏(道央支部)が顧問に就任することが承認された。



2019年 上半期の啓発事業実施報告

北方領土返還要求特別啓発事業の実施



北方領土返還要求「特別啓発事業」として、なかしべつ冬祭り会場において、2月9日、10日の2日間、会員皆様の協力のもと北方領土返還署名活動を行いました。

会場には、北方領土のイメージキャラクターである「エリカちゃん」も登場し、子供達の喜ぶ姿が印象的でした。

寒い中、多くの町民の方に協力いただき、2日間で延べ1,004筆の署名が集まりました。

2019「北方領土の日」根室管内住民大会の開催

「北方領土の日」の2月7日、根室市総合文化会館で北方領土問題の早期解決を求める根室管内住民大会が開催され、元島民や元島民2世、3世ら約800人が参加しました。(中標津支部関係者は16名が参加)

参加者の鉢巻きの文言は例年の「返せ! 北方領土」から「平和条約の早期締結を!」に変更し、「島を返せ」と書かれた「たすき」は使用を取り止めた。

日ロ両政府による北方領土問題を含む平和条約締結交渉に配慮した形の大会に参加者からは不満の声が聞かれた。

大会第二部では、管内の中学生10人による弁論発表が行われ、元島民らは故郷を懐かしみながら次世代を担う子供たちの熱い思いに耳を傾けていた。



青年部活動報告

「北方領土問題現地青年の集い」羅臼町で開催



千島連盟主催の「北方領土問題現地青年の集い」が5月18日、羅臼町で行われ、根室管内及び道内外の元島民2世・3世ら約70人(当支部からは10名)が参加しました。

本年度の研修会では、ロシア語通訳の佐藤史郎氏による講演、羅臼町在住で多楽島出身の高岡唯一氏による語り部、昨年度北方領土中学生作文コンテストで最優秀賞を受賞した羅臼高校1年生の川端歩佳さんによる作品発表と会員2名から訪問事業の参加報告がなされました。

また、先に行われた後継連(根室管内後継者連絡協議会)総会において役員改選が行われ、新会長に標津支部の小野瀬稔之氏が選任され、令和元年度の後継連活動がスタートしました。

令和元年度 中標津支部青年部定期総会終了!

6月7日(金)、町内の寿宴において、佐藤支部長を来賓に迎え、本年度の総会が開催されました。

本年度の事業計画において、新事業として「青少年現地学習会」の実施、後継者活動事業として「北方四島の旅シミュレーション」の企画と各種啓発事業への参加拡充を図ることが承認されました。

会員も新たに5名の方が入会して、37名の青年部となり、これからも青年部会員が一丸となって一日も早い北方領土の返還に向けて啓発活動に取り組むことを確認しました。



INFORMATION

これからの支部事業のご案内

北方領土「語り部&寄席」inなかしべつ



- と き/令和元年7月18日(木)午後7時~
- ところ/しるべっと
(コミュニティホール)
- 内 容/語り部、金八落語
お楽しみ抽選会
- 演 者/三遊亭金八
- 木戸錢/前売券(1,000円)
是非、前売り券ご購入の上ご来場下さい。
(連絡先/館下 電話72-2030)

北方領土返還要求 中標津住民大会



- と き/令和元年8月10日(土)
午後2時~30分
- ところ/なかしべつ夏まつり会場
(特設ステージ)
- ※「住民大会」終了後、北方四島ビンゴ大会を行いますので、皆さんの参加をお待ちしています。
(北方領土返還要求の署名を頂いた方にカードをお渡します)

青少年 北方領土現地学習会



- と き/令和元年9月実施予定
- 行 先/根室市
- 経 路/貸切バスにて標津町を経由し
根室ノサップ岬
- 目 的/北方領土を直に見て
領土問題を学習する。
(島民2世による語り部講演)
- 参加者/町内の小中学生40人
- 参加料/無料